

西脇市と地場産業「播州織」の新たなシンボルに

「西脇チェック」が誕生しました！

市では2025年大阪・関西万博や市制20周年に合わせて西脇市と地場産業「播州織」を広くPRするため、シンボルとなるオリジナルデザインを募集し、人気投票で選ばれた作品を「西脇チェック」に決定。これからさまざまな場面で広く活用していきます。

▼問合せ 商工観光課（市役所内線2024）

1 一次審査

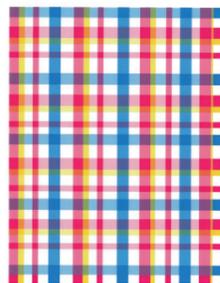


応募条件は西脇市のロゴマークの3色（シアン、マゼンタ、イエロー）を使用すること。応募のあった合計141作品の中から、最終候補作品を選定する審査会を令和6年8月27日に開催。各専門分野で活躍される8人の審査員による厳正な審査を経て、最終候補の3作品が決定しました。

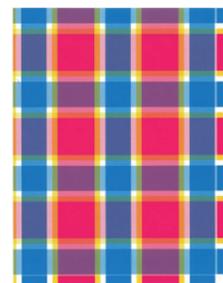


コンセプト「日本のへその緒」をビジュアル化した西脇市シティブロモーションロゴマーク▶

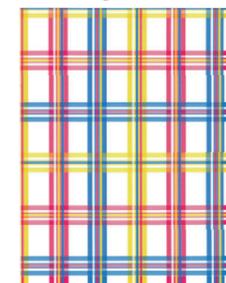
デザインA



デザインB



デザインC



▲最終候補の3作品。審査基準はテーマ性、シンボル性、デザイン性、実現性。ちなみに今回応募者の最年少は10歳、最年長は80歳。

2 試織生地開発と人気投票

人気投票で西脇チェックを決定するため、最終候補の3作品の生地を試作し、市の施設内で展示しました。

市立小中学校では児童生徒がタブレットなどを活用してインターネット投票に参加。令和6年11月17日、にしわき産業フェスタ特設会場での投票と合計し、西脇市と播州織の新たなシンボル、西脇チェックが決定しました。



▲老若男女、実際に織られた生地を見ながら投票

4 今後の活用

西脇チェックの活用はもう始まっています。西脇高校生活情報科の生徒が、2月の成果発表会のファッションショーで衣装生地として使用。播州織PRの新たな一歩となりました。

市では市民や事業者の皆さんが広く使用できるように、知的財産関連の登録手続きを進めています。今後の活用にご期待ください。



▶衣装のデザインから縫製、モデルまで手掛ける西脇高校生



▶デザインに忠実に糸染めから生地を試織



▼一人1台のタブレットで投票する児童ら



投票結果

	デザインA	デザインB	デザインC
インターネット投票	588票	600票	443票
会場投票	463票	492票	480票
合計	1,051票	1,092票	923票

デザインBが西脇チェックに決定▶▶▶

3 受賞者の声

この西脇チェックをデザインしたのは廣地爽葉さん。神戸芸術工科大学2回生で、テキスタイルデザインコースを専攻しています。

「マゼンタは大きいなる愛ということで、一番多く使いました。豊かな川であるシアンの周りを、個性ある人材のイエローが行きかう様子を表現しました」

「正直、ロゴマークの色は奇抜と感じましたが、それを和らげるのではなく、このまま行こうと。線幅を細かくするのはなく広く使う。ロゴマークに寄せるイメージです。遠くから見てもチェックと分かります。」

この西脇チェックを見て、かわいいなあと、笑顔になってもらえたらうれしいです」



これからの目標を聞くと「服作りが好きなので、将来は服作りができる環境で活躍したい」とにっこり。

くるぞ！20周年！ 西脇市制20周年 記念事業

10月1日、西脇市は誕生から20年を迎えます。令和7年度は1年間にわたって、さまざまな記念事業を実施します。



くるぞ！万博！ EXPO 2025 大阪・関西万博

2025
4.13(日) ▶▶▶ 10.13(月・祝)
大阪・夢洲

西脇高校生が万博会場で播州織ファッションショーを開催します。他にも、市ではいろいろな出展を計画しています。

